

令和4年度第1回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）

令和4年9月22日（木）
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午後 1 時59分開会

大森文化施設担当課長：

本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和 4 年度第 1 回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）を開催いたします。

私、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当課長の森と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを付議する会、また評価部会は江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に御評価いただく会となっております。

本日の評価部会は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格の評価をよろしくお願いいたします。

まず始めに、東京都江戸東京博物館副館長の田中から御挨拶申し上げます。

田中副館長：本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本評価部会では、工芸品 1 点につきまして、その購入価格を御評価いただくものでございます。本資料は、当館に収蔵されることとなりましたら、江戸東京博物館の常設展や特別展などの展覧会でも展示可能なものであり、当館の活動にとって重要な資料になるものと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

大森文化施設担当課長：それでは、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。私の、向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

岡野委員でございます。

高波委員でございます。

松尾委員でございます。

吉川委員でございます。

なお、小林委員につきましては事前に御欠席との御連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の新田でございます。

よろしくお願いいたします。

それでは、次にお手元の資料の御確認をお願いしたいと思います。

一番上でございますのが会議の次第になります。

そして、A4縦判の「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料評価部会（工芸品・民俗生活部会）委員名簿」「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」「令和 4 年度第 1 回資料収蔵委員会 資料評価部会（工芸品・民俗生活部会）説明資料」A3横判の「令和 4 年度第 1 回資料収蔵委員会 資料評価部会（工芸品・民俗生活部会）資料」「令和 4 年度第 1 回資料収蔵委員会 資料評価部会（工芸品・民俗生活部会）評価票」がお手元に

あるかと思えます。もし不足のものがありましたら、担当職員にお申しつけいただければと思えます。

また、お配りした名簿の肩書等に誤りがございましたら、恐縮ですが、後ほど事務局へ御連絡いただければと思えます。

なお、お手元の資料ですけれども、現時点で未公開の情報がございましたので、会議終了後、回収させていただきたいと存じます。

それでは、議事に入ります。

それに先立ちまして、当部会の公開について申し上げます。

当部会は、「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第11の規定によりまして、原則公開となっております。そのため、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上にて公開しております。

一方で、当部会における評価対象資料の価格評価に関する議事は、同要綱第11の第1項(1)の規定によりまして、非公開となっております。

なお、当部会の議事録は同要綱第11の第2項の規定によりまして、資料収集の決定後に公開を予定しています。公開にあたりまして、個人情報など公開に差し障りのある内容がないか、事前に委員の皆様と議事録で確認させていただくことになっておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思えます。

まず、事業企画課長の新田から、本日御評価いただく資料の説明をさせていただきます。

新田事業企画課長：それでは、今回御評価いただく資料について御説明申し上げます。

A4判の「令和4年度第1回資料収蔵委員会 資料評価部会（工芸品・生活民俗部会）説明資料」を御覧ください。

今回お諮りする資料は、産所の様相をミニチュアサイズで再現した人形並びに道具類でございます。白地の布団に寝る赤子と、その枕頭に置かれる厄除けの天児に、新生児を世話する二人の官女、そして安産祈願の犬笛や白絵が施された屏風などといった調度類の合計16点からなります。

このような人形の類例は非常に少なく、管見の限り、京都の尼門跡寺院光照院に伝わる「御誕生人形」のみが確認されます。この人形は、中御門天皇から皇女亀宮尊乗女王に贈られたもので、亀宮の誕生場面を再現したものと伝えられます。本資料にも、根拠は未詳ながら箱蓋に「宮家御誕生雛」と書かれた貼り紙があり、高貴な姫君の誕生や出産にまつわる人形玩具の一つであったと考えられます。

本資料で注目されるのは、箱蓋に記される「天保十二年丑三月／大御台様より充君様江御譲り被進候／御式正御人形」との墨書でございます。この記述から、本資料は天保12年3月に第11代将軍徳川家斉の正室・寔子から清水徳川家5代当主徳川斉彊の正室・豊子に譲られたものであることが分かります。

寔子は、家斉の御台所として江戸城大奥で権勢を誇った女性として知られます。実父は

薩摩藩主島津重豪でありましたが、近衛経熙の養女となって、家斉に入奥しました。豊子もまた広幡家から近衛忠熙の養女となって徳川斉疆に嫁いでおります。

「柳営日次記」には、天保12年2月21日に寔子が家斉の死去に伴い落飾したことが記されております。本資料が寔子から豊子に譲られたのはそれから間もない時期で、仏門に入る寔子から豊子への道具分けの一品であった可能性を含め、本資料の箱書きは大奥における道具の継承の在り方について示唆的な情報を提供しております。

本資料を巡っては、製作時の所持者や製作の経緯、伝来など、今後の研究にまつべき要素が多いのですが、出産にまつわる習俗に関する研究材料として期待されるだけでなく、奥向における産所の様子をうかがわせる資料として貴重でございます。展示においては常設展示「武家の文化」のほか、徳川家や大奥を取り上げた企画展・特別展での活用が見込まれます。

説明は以上でございます。

大森文化施設担当課長：ありがとうございます。

実見の後にも質疑の時間がございますが、現段階で何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に、評価方法について御説明させていただきます。

お手元の評価票に金額を記載いただきまして、御署名いただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額とさせていただきます。

説明は以上になります。

それでは、資料の実見をしていただきたいと思いますので、会場への移動をよろしくお願ひします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

大森文化施設担当課長：それでは、議事を再開させていただきます。

資料を御覧いただきまして、何か御意見、御質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、お手元の評価票に評価価格の記載と御署名をお願いしたいと思います。

なお、金額は消費税込みとなっておりますので、よろしくお願ひいたします。ペンで御記入いただければと思います。

(評価票記入)

大森文化施設担当課長：御記入がお済みになった委員の方は、係の者が確認いたしますので、挙手かお声掛けいただければと思います。確認終わりましたら御退席いただいて問題ございません。そのまま会議終了ということになります。本日はありがとうございます。

した。

午後 2 時55分閉会

以上